

タイトル：高野山コウヤマキ保護林エリア

高野山は今現在残る数少ないコウヤマキの在来の生息地の一つです。コウヤマキは2億年もの間地球に存在し昔は世界中で生息していましたが、200万年ほど前にその森のほとんどは絶えたか破壊されてしまいました。今ではコウヤマキのほとんどは日本にあります。コウヤマキは成長の遅い木ですが、保護活動や保護地区選定により高野山の森は日本のなかでもコウヤマキが最も集まった場所となりました。

コウヤマキに遺伝的に近いものはなく、コウヤマキ科、コウヤマキ属に唯一所属する木です。これを理由に、化石記録に長く残るため、コウヤマキは「生ける化石」と呼ばれることもあります。その松かさの成長に一年もかかり、その針は渦巻く形で傘に似ることから英語では Umbrella pine（傘の松）という慣用名を持ちます。日本語のコウヤマキは高野山に言及するものです。

コウヤマキの美しい針葉は切り離されても長持ちするので、高野山では昔ながらその枝は正式な場でのお花の代わりとして、またお寺やお墓での供え物として用いられます。

自然で成長するときはコウヤマキの幹はまっすぐ高く育ちますが、幾度も切り離されることでふしだらけで曲がりくねった形になります。そのため、保護林のコウヤマキはお寺の近くの枝が切り落とされるコウヤマキとはまるっきり違って見えるかもしれません。

訪問者はこの美しく象徴的な木を女人道のすべてを通して見ることができ、高野山の多くの寺院で育っている様子も伺えます。